くみあいNEWS

第１５３３７号
2023年12月26日(火)
発行責任者
日本製鉄和歌山労働組合
組織教宣部
WAKAYAMA WORKERS' UNION

組合ＨＰ　組合 LINE

代表内線番号　和歌山地区(本部)（54）－3590
堺地区　652990／海南地区(54)－5555

日本製鉄労連「AP24 春季取り組み討論集会」に参加しました

和歌山労組は去る 12 月６日(水)に日本製鉄本社で行われた日本製鉄労連「AP24春季取り組み討論集会」に参加しました。

本討論集会では、AP24春季取り組み(※)に向けて組合員が抱える労働条件や福利厚生についての課題や問題を共有する場であり、参加した各単組の出席者より積極的な発言が行われました。和歌山労組としては、これまでの支部会議などで組合員の皆様からいただいた意見を精査した上で取りまとめ、参加した支部長に代表で発言していただきました。今後、日本製鉄労連は、各単組からあげられた全ての意見を踏まえ、来年１月にAP24春季取り組み方針(案)を掲示します。

今回のAP24は、大きな転機となる取り組みになることから、和歌山労組は今後AP24春季取り組みの盛り上げを図るべく様々な活動を展開していきます。

各支部におかれましては、人材確保の定着、「総合力世界№1の鉄鋼メーカー」にふさわしい労働条件を確立すべく、今後支部の盛り上げ活動にご協力をお願いします。







討論集会での和歌山労組の発言内容(一部抜粋)

◆AP24春季取り組みにおける賃金改善要求を単年度要求とすることについて

- AP23春季取り組みについては、結果として多くの企業が高額回答を示すなかで、他産業・他企業と日本製鉄との回答額に大きな差が生じた。こうした経緯を踏まえ、2年サイクル運動(※)を堅持したうえでの単年度要求については、足もとの物価高騰や目まぐるしく変化する取り巻く環境・情勢へタイムリーに対応できる取り組みであることから組合員の理解が得られている。
- 今後も人材獲得競争がさらに激化していくことを踏まえるならば、「総合力世界№1の鉄鋼メーカー」として、他産業・他企業を上回る賃金改善要求を継続的に行っていくことが必要と認識していることから、全産業トップクラスの賃金水準を目ざし、連合会の粘り強い交渉を切望する。

◆基本賃金への財源投入に取り組む考え方について

●AP24春季取り組みにおいては、他産別、他企業に見劣りしない「総合力世界№１の鉄鋼メーカー」にふさわしい賃金水準となるよう、賃金改善に期待する声が多くあげられている。したがって、財源を基本賃金へ投入することは優秀な人材の確保や離職防止、ひいては組合員の活力発揮に繋がるものと受け止めている。

◆優秀な人材の確保・定着や、連続操業を支える職場活力発揮等、課題解決の観点で要求すべき項目はあるか。

●常昼勤務者においては、近年、テレワーク制度やフレックス制の導入によって柔軟な働き方ができるようになり、ワーク・ライフ・バランスの向上が図られてきたと受け止めている。一方、連続操業を支える交替勤務者は、常昼勤務者に比べて柔軟な働き方が難しい状況にあり、若者に敬遠される理由の１つになっている。交替勤務者の柔軟な働き方により人材の確保・定着を目ざす観点から、勤務体系の在り方についても今後検討していく必要があると考える。また交替手当の増額や、特別出勤手当の拡充、指定休日の増加など交替勤務者の活力に繋げるべく制度の見直しも必要であると考える。

●今後、新卒の採用に向けては他産業・他企業を上回る魅力ある初任給が必須である。初任給を増額するためには財源を踏まえ、これまで維持してきた賃金カーブの見直しも必要な時期にきているのではないかと考える。

◆「労働時間・休日・休暇」「諸割増率」等各項目に対する意見について。

●鉄鋼産業における連続操業を支えている職場の組合員の身体的・精神的な負荷が高いことを踏まえ、交替手当や職務付加手当ての範囲拡大等、より魅力ある諸手当を検討していく必要があると考える。

●昨今の就職活動においては、休日数や時間外勤務の有無、個々人のプライベートな時間を確保できること等が重視されることから、年次有給休暇の付与日数拡大・積立日数の増加や、交替勤務者の指定休日の増加、年間休日数も 120 日と言わず、125 日を目ざすなど、他企業と比べ優位性の高い制度も必要であると考える。また、週休完全二日制を導入している企業も多く、これからの人材確保の観点から実現を目ざした取り組みをお願いする。

●現場力の向上・やりがいの醸成という観点では、資格を取得した者にも何らかの手当てを付加することなどもできないか。

※用語説明

※AP24春季取り組み…２月から３月にかけて労働組合が会社側に、労働条件改善、産業政策、政策・制度など生活改善全般に関して交渉をする取り組み。AP は「アクティブプラン（略称：AP)」の略。

※２年サイクル運動…１年目は「総合改善年度」として、賃金などの主要労働条件を集中的に交渉し、２年目は「個別改善年度」として、企業・業種間の格差是正など主要交渉を行う運動。

青年女性部が「女性意見交換会」を実施しました





青年女性部は、和歌山・海南・堺地区で働く女性同士の交流の場を通して、過ごしやすい職場環境を確立するため、女性意見交換会を計画し、第１回として和歌山地区を対象に開催しました。

日頃、関わる機会が少ない他支部の女性社員同士が和やかな雰囲気の中、入社してからの悩みや今後希望する女性イベント、職場環境の改善が必要なことなどについて参加者同士で情報交換を行うことができました。

和歌山労組としても、青年女性部と情報共有を行い、女性組合員が働きやすい職場環境の向上につとめてまいります。

「年末助け合いカンパ」へのご協力ありがとうございました

和歌山労組は例年、青年女性部と共同での取り組みとして、不幸にもこの一年間にご逝去された組合員のご遺族と、長期にわたり療養された組合員へのお見舞いとして、「年末助け合いカンパ」を実施しました。

衣笠所長、井上副所長におかれましても、本取り組みにご賛同いただきました。

ご協力いただいた皆様に対しに心から感謝申し上げます。



富山専門部長　　中濱組合長



衣笠所長からカンパをいただく南方青年女性部長



井上副所長からカンパをいただく正木専門部長

南方青年女性部長メッセージ

日頃より、青年女性部の活動に対するご支援ご協力を賜り、ありがとうございます。
年末助け合いカンパに対しても多大なるご協力いただき、感謝申し上げます。
青年女性部は来年２月にスノーフェスティバルを開催します。皆様の参加お待ちしています。
来年も組合活動全体が盛り上がるように邁進してまいりますので、引き続きのご支援ご協力のほどよろしくお願いいたします。

和歌山製鋼工場　信田（しのだ）憲一（けんいち）氏が「卓越した技能者（現代の名工）」に選ばれました

卓越した技能をもつ人へ、厚生労働省が表彰する「現代の名工」に和歌山製鋼工場の信田（しのだ）憲一（けんいち）課長が選ばれたことからインタビューをさせていただきました。



信田課長の功績
- 丸ビレット鋳造と鋼管の同期操業を実現。
- 新スラブ連続鋳造設備の設計・建設・立ち上げに携わる。

プロフィール

生年月日：1963年９月生まれ
経　　歴：1979年に旧住友金属工業（現日本製鉄）に訓練生として入社し、卒業後は製鋼工場の連続鋳造職場に配属。配属から製鋼一筋で仕事に従事。今回の功績は、和歌山地区はもちろんのこと、会社の発展に大きく貢献しました。
趣　　味：ゴルフ・バイク・車

選出されたときはどのようなお気持ちでしたか？

率直にうれしいと感じました。また、自分の力だけではなく周りの皆様からの力添えをいただいた結果であり、感謝の気持ちが大きいです。

新しい設備を立ち上げる際に直面した困難な点についてお聞かせください。

新スラブを設計・建設した際に、元の設備をベースに設計したが同じものだと面白くないと考え、設備の構造や操業方法を従来とは違う形にしました。そのため、作業をされる方に習熟いただく計画にとても苦労しました。安全はもちろんのこと安定的操業に繋げることの難しさを感じました。

仕事をする上でのやりがいは何ですか？

試運転で設備がうまく立ち上がり、安定的な操業に繋がっているときにやりがいを感じます。設備立ち上げ時に試験鋳造を行うことを「赤材通し」と言いますが、そこで理想の赤材が出てきたときの嬉しさは言い表せません。

「現代の名工」は優れた技能を次世代に継承していくことを目的としていますが、若い世代の方々に向けてエールをお願いします。

「やれば実る！」の一言。15歳に訓練生として入社し、今は60歳になり長い間仕事に携わってきましたが、目の前のことに懸命に取り組んできたからこそ、今の自分があり、今回の功績に繋がったと感じています。

何事も一気にジャンプアップするのは不可能で、心身ともに無理がでてきてしまいます。コツコツと着実に目の前のことに取り組んでいってください。

「卓越した技能者（現代の名工）」とは

卓越した技能を持ち、その道で第一人者として目されている技能者を厚生労働省が表彰するものです。技能の世界で活躍する職人や技能の世界を志す若者に目標を示し、将来を担う優秀な技能者の確保・育成を進め、優れた技能を次世代に継承していくことを目的としています。